

札幌大学外国語学部講演会
「若者のコミュニケーションの変容」
2011年12月20日

若者のコミュニケーションの変容
ーネットとリアルの間にはー

北海道大学大学院
メディア・コミュニケーション研究院
山田義裕

PART I

コミュニケーションとは何か？

コミュニケーションのメタファー

コミュニケーションは

キャッチボールだ

コミュニケーションのメタファー

コミュニケーションは

ダンスだ

“communication”の辞書的意味

- ・何かを伝えること
Senses relating principally to the transmission or imparting of something (OED)
- ・何かを共有すること
Senses relating principally to association and sharing (OED)

コミュニケーションの二つの形態

- ・仕事などでの情報交換
instrumental (道具的)
- ・井戸端会議、雑談
consummatory (自己目的的)

つながるためのコミュニケーション

乳幼児のコミュニケーションの発達

赤ちゃんは
どのように世界／人と
つながりはじめるのか

乳幼児のコミュニケーションの発達

- 1 赤ちゃんに世界はどううつるか？
聴覚と視覚の発達
- 2 鏡に映った自分分かるのはいつ？
自己知覚 (self-awareness) のめばえ
- 3 三歳児は人の心を読むか？
「心の理論」の発達

乳幼児のコミュニケーションの発達

赤ちゃんの聴覚と視覚の発達

- ・お母さんの話し声分かる（誕生直後）
- ・触覚と視覚をリンク（二か月）

乳幼児のコミュニケーションの発達

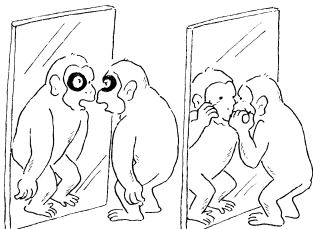
Meltzoff & Borton (1979)のおしゃぶり実験



下條(1988:121)

乳幼児のコミュニケーションの発達

自己知覚のめばえ：マークテスト



下條(1988:174)

乳幼児のコミュニケーションの発達

赤ちゃんが鏡の自分を知覚するまで

1. 三ヶ月の段階：
無反応
2. 四・五ヶ月の段階：
鏡の像に微笑みかける
3. 十一・十二ヶ月の段階：
鏡像を「自己」ではなく「遊び仲間」と認識
4. 十五ヶ月から十八ヶ月：
鏡に映った自己を自分だと知覚し始める

☆ 二歳まで自己知覚の機能が獲得される

乳幼児のコミュニケーションの発達

人の心を読めるのは何歳児か？

心の理論
(a theory of mind)

人の心を読み、心の動きを推論する能力の発達時期

乳幼児のコミュニケーションの発達

誤った信念の課題 (a false believe test)

乳幼児のコミュニケーションの発達

他者視点取得と「心の理論」

- 1 相手の目への興味 (2ヶ月)
- 2 自分への視線への興味 (6ヶ月)
- 3 相手の視線の先への興味 (共同注視) (9~14ヶ月)
- 4 **他者視点取得 (3歳)**
- 5 **相手の心を読み (心の理論) (4歳)**

他者視点取得/心の理論の特性

他者視点取得/心の理論は

無意識の認識作用

無意識の他者視点取得/視点の移行

日本語の家族呼称

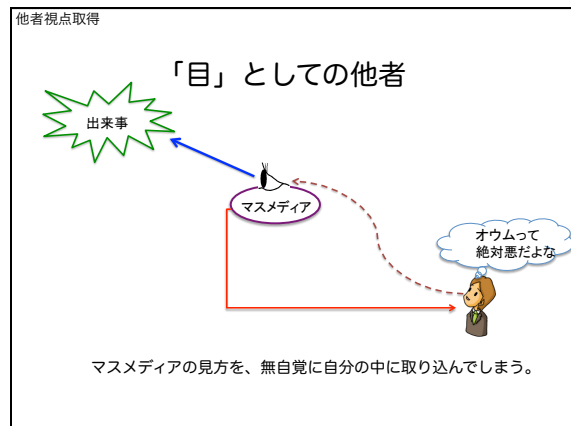
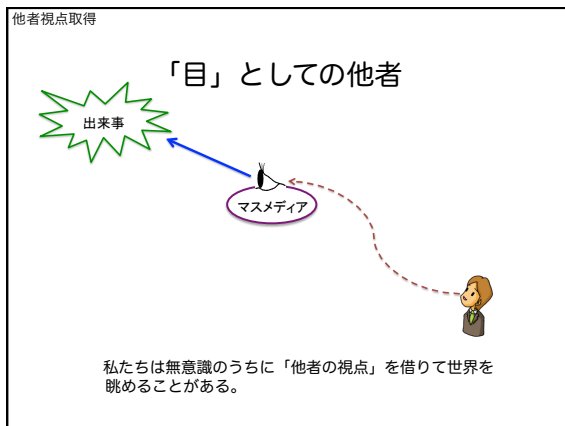
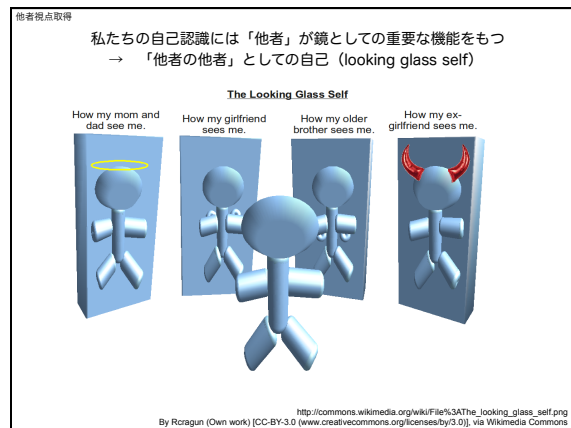
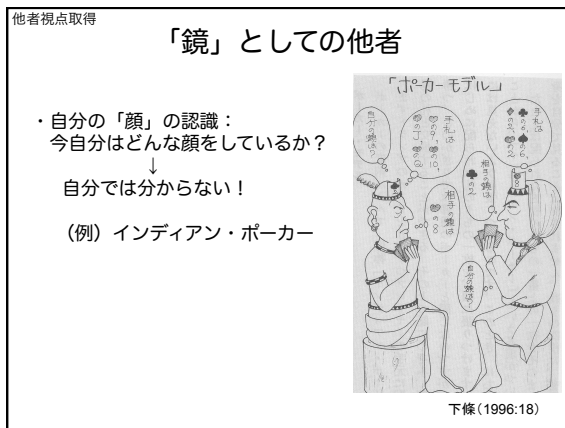
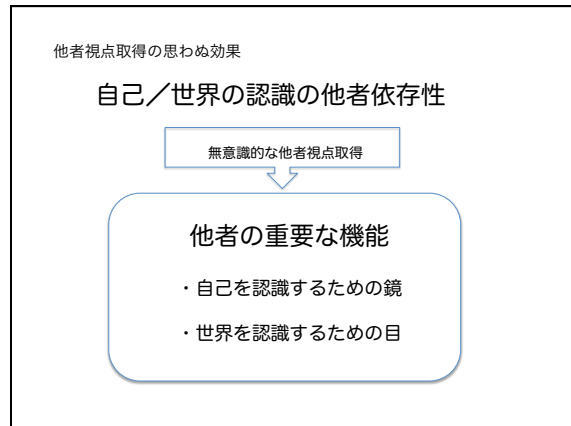
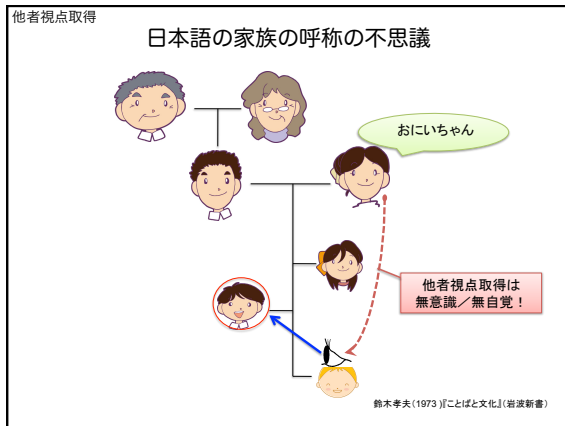
サザエ:
あら、お風呂に入るのに、またタオルを忘れていったわ。タラちゃん、**おじいちゃん**にこのタオルもって行って。

タラちゃん:
はいわかりました。**おじいちゃん**にもっていきます。

他者視点取得

日本語の家族の呼称の不思議

鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』(岩波新書)



他者視点取得の思わぬ効果

自己／世界の認識の他者依存性

私たちは無意識に

- ・他者を媒介にして自分を知り
- ・他者を媒介にして世界を認識する

この無意識の認識メカニズムが、実は私たちのコミュニケーションのあり方を強く規定している。

PART II

若者のコミュニケーションの変化

戦後の日本社会はどう変化し
それにもない
コミュニケーションの形はどう変化したか？

歴史の中の「今」

平成元年（1989年）とは どういう年か？

日本では

- ・昭和天皇御崩御（1月7日）
- ・手塚治虫亡くなる（2月9日）
- ・オウム真理教による
坂本弁護士一家殺害事件（11月4日）

世界では

- ・ベルリンの壁崩壊（11月10日）
- ・冷戦終結（マルタ会談、12月3日）

→近代の終焉

歴史の中の「今」

現代とはどのような時代か？

→近代社会から未来社会への過渡期

図5 人間の歴史の3つの局面

「現代」は「近代」から「未来」への移行期
1989年は「近代」の最終局面

見田宗介(2006:159)

歴史の中の「今」

近代の始まり（18世紀～）

脱魔術化 (Max Weber)
前近代の伝統的・宗教的な世界観や価値観からの脱却

- **市民革命**：民主化のフェイズ
 - 近代的市民社会の時代へ
 - 大衆 (the masses) の誕生
- **産業革命**：工業化のフェイズ
 - 大量生産 (mass production) の時代へ
 - 流れ作業工程 (assembly line) の導入等
- **情報革命**：マス・メディアのフェイズ
 - マス・メディア、マス・コミュニケーションの時代へ
 - 新聞・ラジオ・テレビの普及など

近代は「大衆 (the masses)」の時代

戦後日本の変化

見田宗介による戦後の時代区分

～リアリティの変容～

1945(終戦) 1990年

理想の時代			夢の時代			虚構の時代		
1945～1960			1961～1975			1976～1990		
60年安保闘争 (学生運動) 1959-1960年			日本万国博覧会 (大阪万博) 1970年			東京ディズニーランド 開設 1983年		

戦後日本の変化

大澤真幸による戦後の時代区分
～リアリティの変容～

1945(終戦) 2011(現在)

理想の時代	虚構の時代	ポスト虚構の時代
1945～1970	1971～1995	1996～
おじさん おばあさん世代	おとうさん おかあさん世代	現代の若者 みなさん世代

理想を求めた → 虚構こそがリアル → ???

戦後日本の変化

戦後日本の社会変化の背景
～コミュニティ/コミュニケーション/消費の変容～

- 1 コミュニティの変容 (都市化) :
コミュニティの空洞化 (個人化) を、二段階の「郊外化」 (宮台 2000) から考える
- 2 コミュニケーションの変容 (情報化) :
コミュニケーションの過剰と拡散を情報メディアの変遷から考える
- 3 リアリティの変容 (消費化) :
世界の認識の変化 (大きな物語の凋落) を消費形態の変化から考える

コミュニティの変容

コミュニティの変容
- 「個人化」の徹底 -

宮台真司の「郊外化」の議論:

- ・ 郊外化とは:
旧住民に対して新住民が増える動き
- ・ 郊外化の進展:
戦後日本の郊外化は二段階で進んだ
1 団地化 (1950年半ば～)
2 ニュータウン化 (1970年後半～)

コミュニティの変容

第一の郊外化

◎1950年代半ばから1970年代前半

- ・ 団地化、専業主婦化
- ・ 地域の空洞化×家族の内閉 (核家族化)

コミュニティの変容

第二の郊外化

◎1970年代後半から現在(1997年)

- ・ ニュータウン化、コンビニ化
- ・ 家族の空洞化×若者の第四空間への流出
→ 個人化

cf. 第四空間:
ストリートなどの家庭・学校・地域以外の空間 (都市空間)
チーマー・コギャルが集う

コミュニケーションの変容

コミュニケーションの変容
- 「マス」から個人へ -

- ・ テレビ
1960年代から普及
(1959年の皇太子の結婚パレードの中継)
→ 新聞・ラジオ・テレビの系譜
「マス」メディア
「マス」コミュニケーション
- ・ 電話
1970年代から普及する
→ 電話/ケータイ・パソコン通信/SNSの系譜
パーソナル・メディア
パーソナル・コミュニケーション

コミュニケーションの変容

電話メディアの普及1 ～電話網の質的变化～

情報伝達 (instrumental) の装置から
おしゃべり (consummatory) のツールへ

電話網の重心の質的移行：
1960年代後半から電話網が**業務用**から**家庭用**へ移行

コミュニケーションの変容

電話メディアの普及2 ～電話の置かれた場所～

玄関 ウチとソトとの境界領域

↓

リビング/
ダイニング 家の中心部

↓

延長コード ー延長コードで個室移動ー

↓

個室 子供部屋などの個室
(←コードレス電話の普及：1987年～)

コミュニケーションの変容

電話メディアの普及3 ～固定電話から携帯電話へ：移動体通信の普及～

ポケベル ポケベルの普及 (1980年代終わりから)

↓

PHS
携帯電話 PHS、携帯電話の普及 (1995年頃から)

↓

インターネットの
大衆化 ーインターネットの普及ー (1990年代中盤)

↓

i-mode 携帯でのインターネット利用
(1990年代後半から、i-mode等)

↓

3G 第3世代移動通信システム (3G) の普及
(2001年頃から)

コミュニケーションの変容

電話のパーソナル化

固定電話の長い長い延長コードからの解放

↓

携帯電話 パーソナルな声の
コミュニケーションメディア

↓

いつでも、どこでも

↓

コミュニケーションが
「時と場」から解放

Mobile Communication

↓

パソコン通信 パーソナルな文字の
コミュニケーションメディア

↓

いつでも、だれでも

↓

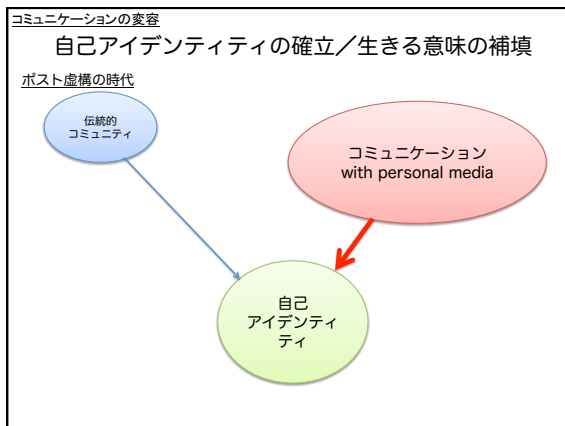
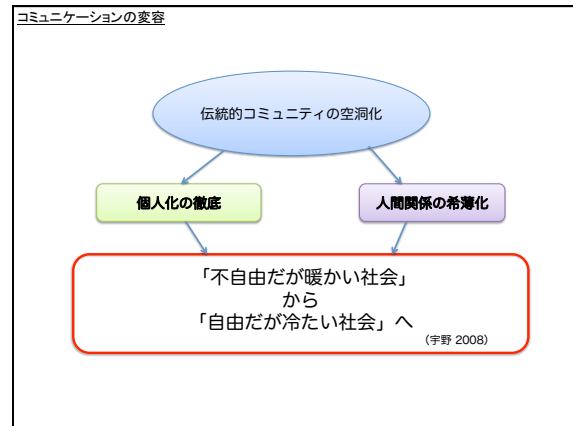
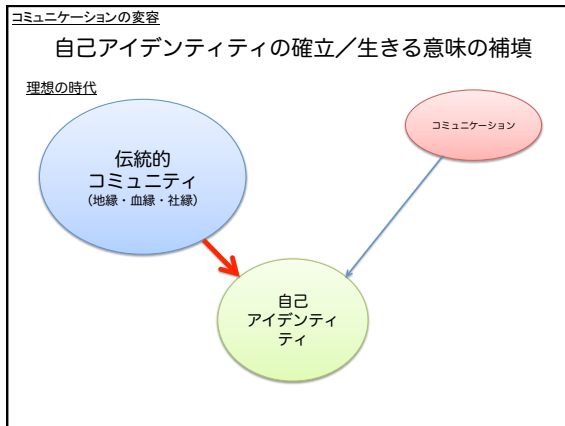
コミュニケーションが
「時と関係」から解放

Anonymous Communication

伝統的コミュニティが空洞化し、
コミュニケーション手段が個人化
した社会を、
私たちはどう生きるか？

自己アイデンティティを支え
生きる意味を補填してくれるもの

- ・コミュニティ (地縁・血縁・社縁)：人間関係の基盤
- ・コミュニケーション：人間関係構築の手段



「ポスト虚構の時代」のコミュニケーション
～コミュニケーションの過剰～

「いつでも、どこでも」の常時接続

フルタイム・インティメット・コミュニティ

- ・ ケータイ依存 (即レス、デコメ)
- ・ ミクシー疲れ、ツイッター疲れ
- ・ 学校の教室
 - KY
 - 優しい関係

土井隆義 (2008) 『友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書

コミュニケーションの変容

「ポスト虚構の時代」のコミュニケーション
～コミュニケーションの拡散～

「マス」から

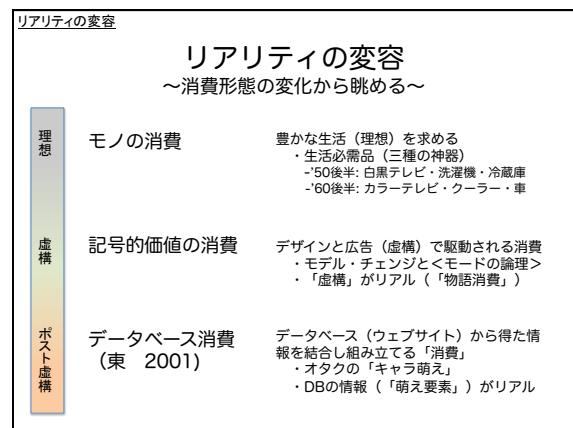
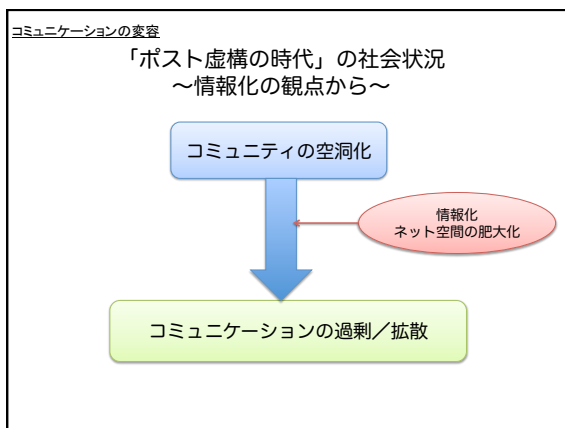
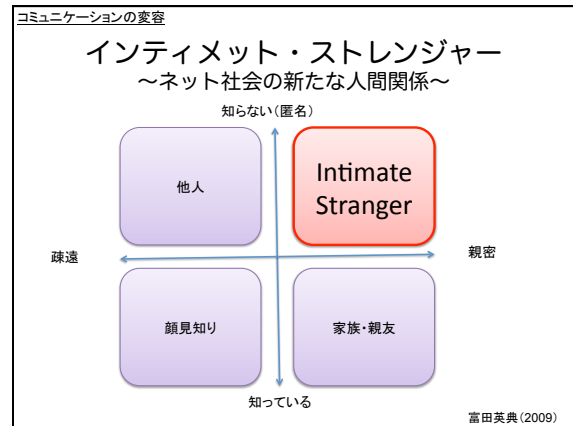
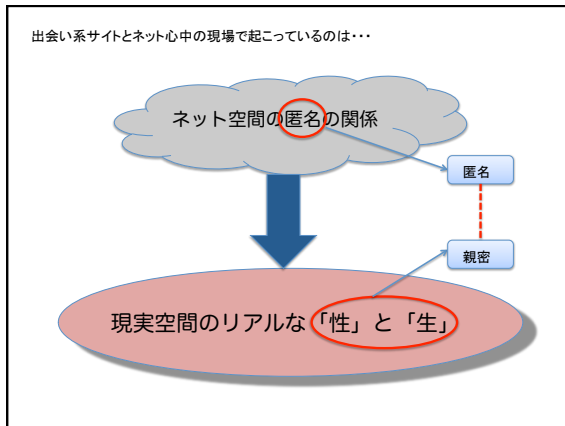
「アノニマス」 (匿名) へ

パソコン通信の「ハンドルネーム」
いつでも、だれとでも

コミュニケーションの変容

匿名の他者とのコミュニケーション
～ネット時代の三面記事～

- ・ 出会い系サイト (1995年～)
 - 援助交際のための出会いの仕掛け
 - テレフォンクラブ (1985年～) からの流れ
- ・ ネット心中 (2003年～)
 - 見知らぬ者同士の集団自殺
 - 自殺系サイト (ドクター・キリコ事件 1988)



消費化・情報化の進展—90年代からゼロ年代へ

「ポスト虚構の時代」後期的変化

90年代からゼロ年代への変化を、「情報化」と「消費化」の観点から考える

消費化・情報化の進展—90年代からゼロ年代へ

1990年代までの消費化と情報化

- 消費化: データベース消費
- 情報化: 巨大データベースとしてのインターネット

- 人間関係: 「オタク」的引きこもり(セカイ系)

現実世界から引きこもってネットでコミュニケーション

消費化・情報化の進展—90年代からゼロ年代へ

CGM時代の参加型消費

消費化の新たなステージ：

- ・参加型消費という新たな消費形態の出現
 - A. トフラーの生産消費者 (prosumer) の現実化
- ・二次創作 (n 次創作) 文化の大衆化

↓

コンテンツのオープンソース化
協働の連鎖が立ち上がる
コモンズの出現

消費化・情報化の進展—90年代からゼロ年代へ

Web2.0 時代の幕開け

情報化の新たなステージ：

- ・ソーシャルメディアの大衆化
 - ツイッター、フェイスブック等
- ・ネットの利用の変化：
 - 情報検索からコミュニケーションへ

↓

インターネットは
「巨大データベース」から
「ソーシャル・メディアのプラットフォーム」へ

消費化・情報化の進展—90年代からゼロ年代へ

90年代からゼロ年代への人間関係の変化

現実世界から引きこもってネットで「萌え」る
90年代

↓

ネットを活用した趣味縁の交流
ゼロ年代

消費化・情報化の進展—90年代からゼロ年代へ

ゼロ年代の新たな共同性の形

血縁・地縁・社縁

↓

情報縁・趣味縁

(野田1986; 浅野2011)

消費化・情報化の進展—90年代からゼロ年代へ

ネットで出会い、リアルに集う

- ・ロック・フェス
- ・アニメ聖地巡礼
- ・ボランティア・ツーリズム
- ・ゲストハウス

消費化・情報化の進展—90年代からゼロ年代へ

MobileとAnonymousの「新結合」

趣味縁を基盤とする
新たなコミュニティの創造

参考文献

- 浅野智彦(2011)『趣味縁から始まる社会参加』(シリーズ若者の気分)岩波書店
- 東浩紀(2001)『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』講談社現代新書
- 東浩紀(2010)『日本の想像力の未来—クール・ジャパノロジーの可能性』NHK ブックス
- 宇野常寛(2008)『ゼロ年代の想像力』早川書房
- 宇野常寛(2010)『リトル・ピープルの時代』幻冬舎
- 大澤真幸(1996)『虚構の時代の果て—オウムと世界最終戦争』ちくま新書
- 大澤真幸(2008)『不可能性の時代』岩波新書
- 大塚英志(2001)『定本・物語消費論』角川文庫
- 北田暁大(2005)『嗤う日本の「ナショナリズム」』NHK ブックス
- Giddens, Anthony (1991) *Modernity and Self-Identity: Self and Society in the Late Modern Age*. Stanford Univ.Press. (『モダニティと自己アイデンティティ—後期近代における自己と社会』秋吉美都、安藤太郎、筒井淳也訳、ハーベスト社、2005)
- 子安増生(2000)『心の理論—心を読む心の科学』(岩波科学ライブラリー 73)岩波書店
- 子安増生・大平英樹(2011)『ミラーニューロンと<心の理論>』新曜社
- 下條信輔(1988)『まなざしの誕生—赤ちゃん学革命』新曜社
- 下條信輔(1996)『サブリミナル・マインド—潜在的人間観のゆくえ』中公新書
- 鈴木健介(2007)『ウェブ社会の思想—<偏在する私>をどう生きるか』NHK ブックス
- 鈴木孝夫(1973)『ことばと文化』岩波新書
- 富田英典(2009)『インティメイト・ストレンジャー—「匿名性」と「親密性」をめぐる文化社会学的研究』関西大学出版部
- 土井隆義(2008)『友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書
- 野田正彰(1986)『都市人類の心のゆくえ—文化精神科学の視点から』NHK ブックス
- 野田正彰(2011)『現代日本の気分』みすず書房
- 濱野智史(2008)『アーキテクチャの生態系—情報環境はいかに設計されてきたか』NTT 出版
- 見田宗介(1995)『現代日本の感覚と思想』講談社学術文庫
- 見田宗介(2006)『社会学入門—人間と社会の未来』岩波新書
- 宮台真司(1994)『制服少女たちの選択』講談社
- 宮台真司(2000)『まぼろしの郊外—成熟社会を生きる若者たちの行方』朝日文庫
- 村田純一(2007)『哲学塾—「わたし」を探検する』岩波書店
- 山村高淑(2011)『アニメ・マンガで地域振興』東京法令出版
- 吉見俊哉他(1992)『メディアとしての電話』弘文堂